

主要農作物品種審査会

日 時：令和8年2月16日（月）

午後2時から午後4時まで

会 場：JAビル宮城 6階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 報告及び審議

(1) 水 稻

イ 報 告

令和7年度水稻優良品種決定調査成績

□ 審 議

令和8年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について

水稻優良品種「つや姫」を特定品種から基幹品種へ移行することについて

(2) 大 豆

イ 報 告

令和7年度大豆優良品種決定調査成績

□ 審 議

令和8年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について

5 その他

6 閉 会

出席者名簿

【委員】

役職	氏名	所属及び職名	出欠
会長	本間 香貴	東北大学大学院農学研究科 教授	出席
副会長	佐々木 利幸	全国農業協同組合連合会宮城県本部 米穀部長	出席
副会長	守屋 明良	公益社団法人みやぎ農業振興公社 常務理事	出席
委員	大川 亘	尚絅学院大学総合人間科学系 准教授	出席
委員	鳥羽 大陽	宮城大学食産業学群 准教授	出席
委員	高橋 清範	一般社団法人宮城県農業会議 副会長	出席
委員	石川 宣子	宮城県生活協同組合連合会 常務理事	出席
委員	大崎 早苗	宮城県農業士会 宮城県指導農業士	欠席
委員	阿部 祐子	仙台市経済局農林部農業振興課 課長	欠席
委員	千葉 啓嗣	宮城県農政部 副部長（技術担当）	出席

【幹事】

役職	氏名	所属及び職名
幹事	關口 道	宮城県農政部 みやぎ米推進課長
幹事	都築 寛明	宮城県農政部食産業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
幹事	菅野 千秋	宮城県農政部農業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
幹事	滝澤 浩幸	宮城県古川農業試験場 作物育種部長
幹事	小高 勝範	宮城県古川農業試験場 作物栽培部長

【事務局等】

役職	氏名	所属及び職名
事務局	菅野 博英	宮城県古川農業試験場 作物育種部 上席主任研究員
事務局	増田 秀平	宮城県古川農業試験場 作物育種部 研究員
事務局	千田 洋	宮城県古川農業試験場 作物栽培部 主任研究員
事務局	佐藤 直紀	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技術主査（副班長）
事務局	小田中 大輔	宮城県農政部みやぎ米推進課生産販売班 技師

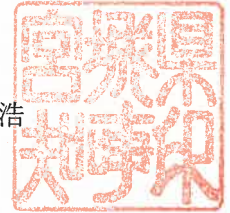
写

みや米第540号

令和8年1月30日

主要農作物品種審査会会長 殿

宮城県知事 村 井 嘉 浩



優良品種の指定等について（諮問）

このことについて、主要農作物種子条例（令和元年宮城県条例第59号）第18条の規定により、貴会の意見を求めます。

記

諮問内容

- 1 令和8年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について
- 2 水稲品種「つや姫」を特定品種から基幹品種へ移行することについて
- 3 令和8年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について

担当 農政部みやぎ米推進課

生産販売班 佐藤（直）

TEL：022-211-2841 FAX：022-211-2849

E-mail：miyamai-se@pref.miyagi.lg.jp

令和7年度 水稻優良品種決定調査成績

令和8年2月16日
古川農業試験場作物育種部

1 水稻優良品種決定調査について

1 優良品種決定調査の流れ

区分	1年目	2年目	3年目
基本調査	予備調査		
		本調査	本調査
現地調査		現地調査	現地調査

原則として
3年間実施

2 優良品種決定調査の調査項目の基準（稲）

調査の種類		調査の項目
基本調査	予備調査	播種期、移植期（直播の場合は入水期）、出穂期、成熟期、発芽の良否（直播又は陸稲の場合に限る。）、稈長、穂長、穂数、全重、玄米収量、標準品種と玄米収量の比率、玄米千粒重、玄米品質、倒伏程度、病虫害、気象災害その他の障害に対する抵抗性、有望度及び有利又は不利とした形質。
	本調査	予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし、環境変化の受け難い項目は省略することができる。心白又は腹白の多少、搗精歩合及び食味。
現地調査		基本調査の予備調査の項目に同じ。

3 供試系統の有望度について

1 単年度調査結果の判定

記号	有望度	意味	取扱
◎	有望	長所が抜きん出ており、短所が気にならない。	調査の継続または累年成績を検討。 ※品種化の見込みがない場合、調査を打ち切る。
○	やや有望	長所が供試目的を満たし、短所が気にならない。	
△	要検討	長所が供試目的を満たすが、短所が気になる。	
×	調査打ち切り	供試目的を満たさない。	調査の打ち切りまたは累年成績を検討。

2 累年度調査結果の取り扱い（本調査2年目以降のもの）

取扱	意味
優良品種提案	優良品種に提案する。
調査継続	優良品種決定調査を継続する。
調査終了	特性把握につき優良品種決定調査を終了する。

4 優良品種として要望される品種（育種の方向性）

気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟耐性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種

イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種
(イ) 高温登熟耐性に特に優れた品種
(ロ) 極良質・極良食味で他県の銘柄に対抗する品種
(ハ) 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種
(ニ) 既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種
ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種
(イ) 業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種
(ロ) チルド加工適性の高い低アミロース品種
(ハ) 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種
ハ 新たな需要を創出する品種
(イ) 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種
(ロ) 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応などに実需者からの要望があり、特定需要が見込まれる品種

5 令和7年度本調査の供試系統とその狙い

1 要望される品種 イー（イ） 高温登熟耐性に特に優れた品種

系統名	早晩性	長所	供試の狙い
東北233号	中生	<ul style="list-style-type: none"> ・高温登熟耐性「や強」。 ・収量優る。 	高温登熟耐性による高品質。
東北246号		<ul style="list-style-type: none"> ・高温登熟耐性「や強」。 ・収量優る。 ・外観品質やや優る。 	
東北247号		<ul style="list-style-type: none"> ・高温登熟耐性「強」。 ・外観品質優る。 	
系統A	晩生	<ul style="list-style-type: none"> ・高温登熟耐性「強」 ・収量、外観品質優る。 	
系統B		<ul style="list-style-type: none"> ・高温登熟耐性「強～や強」 ・収量優る。 	

※ 1 長所は特性検定及びR6調査の結果。東北247号の長所は生産力予備検定及び生産力検定の結果。

※ 2 系統A、系統Bは他県等の育成系統。

6 令和7年度本調査の結果

1 要望される品種 イー (イ) 高温登熟耐性に特に優れた品種

系統名	供試年数	早晩性	有望度取扱	理由
東北233号	予備1本 5	中生	× 調査終了	高温登熟耐性「やや強」だが、今年 of 気象では白未熟粒粒比が対照品種と同等であった。(白未熟粒粒比6.2% ※対照品種6.7%)。
東北246号	予備1本 1		○ 調査継続	外観品質並み～優り、高温登熟耐性がみられる(白未熟粒粒比2.3%)。
東北247号	本 1		○ 調査継続	外観品質やや優り、白未熟粒が少なく、高温登熟耐性が強い(白未熟粒粒比1.2%)。
系統A	予備1本 1	晩生	○ 調査継続	収量優り、千粒重やや大～大きく、高温登熟耐性が強い(白未熟粒粒比1.5% ※対照品種4.2%)。
系統B	予備1本 1		△ 調査打切	出穂期はやや晩生区分であり、中生対照品種と比較すると有望と考えられる(白未熟粒粒比2.3%)。育成地で品種化の見込みがない。

※ 系統A、系統Bは他県等の育成系統。

7 令和7年度本調査の供試系統とその狙い

2 要望される品種 イー（ハ）

「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種

系統名	早晩性	長所	供試の狙い
東北239号	晩生	<ul style="list-style-type: none">・出穂期、成熟期ともに遅い。・収量やや優る。・千粒重やや大きい。・低アミロース。	つや姫以降の熟期かつやや低アミロースによる極良質、極良食味、チルド加工適性。

3 要望される品種 イー（二）

既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種

系統名	早晩性	長所	供試の狙い
東北245号	中生	<ul style="list-style-type: none">・収量優る。	収量性に優れ、高品質、良食味。
系統C		<ul style="list-style-type: none">・収量、外観品質優る。	収量性に優れ、高品質。

※1 長所はR6調査の結果。

※2 系統Cは他県等の育成系統。

8 令和7年度本調査の結果

2 要望される品種 イー (ハ)

「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種

系統名	供試年数	早晩性	有望度取扱	理由
東北239号	予備1本 4	晩生	△ 調査終了	外観品質やや劣るが、「だて正夢」と比較し、出穂期、千粒重が異なるため差別化が期待できる。

3 要望される品種 イー (二)

既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種

系統名	供試年数	早晩性	有望度取扱	理由
東北245号	予備1本 1	中生	○ 調査継続	収量並み～優り、外観品質並み～優り、白未熟粒少ない。
系統C	予備1本 1	中生	△ 調査継続	外観品質並み～優り、白未熟粒少ない。年次変動の確認が必要。

※ 系統Cは他県等の育成系統。

9 令和7年度本調査の供試系統とその狙い

4 要望される品種 ロー（イ）

業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種

系統名	早晚性	長所	供試の狙い
系統D	早生	・収量やや優る。	早生区分で収量性に優れ、業務用の品質、食味を満たす。
系統E	中生	・収量優る。 ・外観品質やや優る。 ・千粒重大きい。	収量性に優れ、業務用の品質、食味を満たす。
系統F		・収量、外観品質優る。	収量性に優れ、業務用の品質、食味を満たす。

※ 系統D、系統E、系統Fは他県等の育成系統。

5 要望される品種 ロー（ロ）

チルド加工適性の高い低アミロース品種

系統名	早晚性	長所	供試の狙い
東北239号 ※再掲	晩生	・出穂期、成熟期ともに遅い。 ・収量やや優る。 ・千粒重やや大きい。 ・低アミロース。	つや姫以降の熟期かつ、やや低アミロースによる極良質、極良食味、チルド加工適性。

※ 長所はR6調査の結果。

10 令和7年度本調査の結果

4 要望される品種 □ー (イ)

業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種

系統名	供試年数	早晩性	有望度取扱	理由
系統D	予備1本 2	早生	○ 調査終了	外観品質優り、高温登熟耐性が強く、良食味。胴割粒多いが、多肥区で改善がみられるため、栽培方法による改善が期待できる。
系統E	予備1本 1	中生	○ 調査継続	千粒重やや大きく、外観品質優り、高温登熟耐性が強い。胴割粒やや多いが、長所が多い。
系統F	予備1本 1	中生	× 調査打切	短所が多く、活用用途が見いだせない。

5 要望される品種 □ー (ロ)

※ 系統D、系統E、系統Fは他県等の育成系統。

チルド加工適性の高い低アミロース品種

系統名	供試年数	早晩性	有望度取扱	理由
東北239号 ※再掲	予備1本 4	晩生	△ 調査終了	外観品質やや劣るが、「だて正夢」と比較し、出穂期、千粒重が異なるため差別化が期待できる。

1 1 累年度成績の検討

系統名	要望区分	取扱	累年調査概評及び取り扱いの理由
東北233号	イ-(イ)	調査終了	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひとめぼれ」と比較して、出穂期及び成熟期は同等。収量優る。また、多肥区で倒伏やや少ない。 ・高温登熟耐性を有望視し再供試したが、白未熟粒粒比が「ひとめぼれ」並みのため、調査終了とする。
東北239号	イ-(ハ) ロ-(ロ)	調査終了	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」と比較して、出穂期は同等で成熟期はやや遅い。千粒重やや優る。「だて正夢」と比較し、出穂期及び成熟期は遅い。収量優り、千粒重優る。 ・特性把握につき調査終了とし、ニーズの高まりに応じて優良品種採用を検討する。
系統D	ロ-(イ)	調査終了	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまのしずく」と比較して、出穂期及び成熟期は同等。外観品質優る、現地評価良好。また、多肥区で収量優る。 ・特性把握につき調査終了とし、育成地の品種登録動向によっては優良品種採用を検討する。

※ 系統Dは他県等の育成系統。

1 2 令和7年度予備調査の供試系統とその狙い

系統名	要望区分	早晚性	長所(供試の狙い)
系統G	イ-(イ)	晩生	高温登熟耐性「強」
東北248号	イ-(ハ)	中生	早晚性「や晩生」、良食味
系統H	ロ-(イ)	中生	耐倒伏性「強」、良質良食味
系統I			耐倒伏性「強」、極多収
系統J		晩生	多収
系統K	ハ-(イ)	早生	耐倒伏性「強」

※1 長所は育成地の特性概要より引用。

※2 系統G、系統H、系統I、系統J、系統Kは他県等の育成系統。

1 3 令和7年度予備調査の結果

系統名	要望区分	早晩性	有望度 取扱	理由
系統G	イ-(イ)	晩生	× 調査打切	成熟期がかなり遅く、収量が劣る。
東北248号	イ-(ハ)	中生	◎ 調査継続	千粒重が大きく、収量が優る。白未熟粒比が低く、多収系統として期待できる。
系統H	ロ-(イ)	中生	○ 調査打切	出穂期は対照品種並で成熟期はやや遅い。千粒重が大きく、収量、外観品質も優れており、長所が多い。育成地で品種化の見込みがない。
系統I			× 調査打切	収量優るが、白未熟粒、死米が多く品質が劣る。
系統J		晩生	△ 調査継続	中生区分であり、中生区分より収量かなり優る。青未熟粒が多く、刈取時期を遅らせることで収量向上が期待でき、中生区分で調査を継続する。
系統K	ハ-(イ)	早生	× 調査打切	中生区分であり、中生区分より収量が劣る。

令和8年度
優良品種決定調査に供する品種
(稲)

令和8年2月16日
古川農業試験場作物育種部

1 優良品種として要望される品種（育種の方向性）

気候変動に対応し、いもち病等の病害虫に強く、高温登熟耐性・耐冷性・耐倒伏性に優れた以下の特性を有する品種

イ 既存の優良品種を上回る特性を持ち、主力となりうる品種
（イ） 高温登熟耐性に特に優れた品種
（ロ） 極良質・極良食味で他県の銘柄に対抗する品種
（ハ） 「コシヒカリ」、「つや姫」以降の熟期で、極良質・極良食味の晩生品種
（ニ） 既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種
ロ 中食・外食等の業務用ニーズに対応する品種
（イ） 業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種
（ロ） チルド加工適性の高い低アミロース品種
（ハ） 大量調理に適した優れた炊飯適性を持つ品種
ハ 新たな需要を創出する品種
（イ） 輸出を前提とした低コスト栽培及び収量性に極めて優れる品種
（ロ） 米粉用、酒造用、健康・機能性市場対応などに実需者からの要望があり、特定需要が見込まれる品種

2 令和8年度本調査の供試系統とその狙い

1 要望される品種 イー（イ） 高温登熟耐性に特に優れた品種

品種・系統	早晚性	供試年数	長所（供試の狙い）
東北246号	中生	本 2 現地2	・高温登熟耐性「や強」 ・白未熟粒少ない。
東北247号		本 2 現地2	・高温登熟耐性「強」 ・白未熟粒少ない。
系統A	晩生	本 2 現地2	・高温登熟耐性「強」 ・白未熟粒少ない。

※ 系統Aは他県等の育成系統。

2 令和8年度本調査の供試系統とその狙い

2 要望される品種 イー（二）

既存の優良品種に、生産者・消費者・実需者等のニーズに適応する望ましい特性を付与した品種

品種・系統	早晩性	供試年数	長所（供試の狙い）
東北245号	中生	本 2 現地 2	収量やや優り、外観品質優る。
系統C		本 2 現地 2	外観品質優る。

※ 系統Cは他県等の育成系統。

2 令和8年度本調査の供試系統とその狙い

3 要望される品種 ロー（イ）

業務用に対応する品質・食味を持ち、収量性に優れた品種

品種・系統	早晩性	供試年数	長所（供試の狙い）
東北248号	中生	本 1 現地1	収量優る。食味上中。
系統E		本 2 現地2	収量やや優る。食味上中。
系統J		本 1 現地1	収量優る。食味上中。

※ 系統E、系統Jは他県等の育成系統。

予備調査の供試系統については、各育成地の配付系統情報が揃った後、適宜選定する。

水稲優良品種「つや姫」を特定品種から基幹品種へ移行することについて

水稲品種「つや姫」は、山形県農業総合研究センター水田農業試験場において、「山形70号」を母、「東北164号」を父として人工交配を行い、育成された品種で、平成21年に本県奨励品種に採用した。

倒伏や高温登熟により品質が不安定となっている「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」の代替えとして、南部平坦地帯を中心とした県内の平坦地帯及び仙台湾沿岸地帯に導入を想定し、奨励品種の採用を行った。

奨励品種採用時の作付見込み面積は、県内で1,000haであったが、令和7年産では5,919haと品種別の作付面積割合では11.1%となり、「ひとめぼれ」に次ぐ作付面積となっている。「つや姫」は高温登熟耐性に優れる品種であり、生産・流通対策上、特に必要とされるものと考えられることから、基幹品種への移行を検討する。

表1 水稲優良品種「つや姫」の作付面積の推移

年産	「つや姫」作付面積 (ha)	「つや姫」作付割合 (%)
令和2年産	4,378	7.4
令和3年産	5,008	8.5
令和4年産	4,966	8.8
令和5年産	5,257	9.3
令和6年産	5,386	10.3
令和7年産	5,919	11.1

注) 作付面積及び作付割合は、種子供給量(公益社団法人みやぎ農業振興公社)を面積換算(4kg/10a)したものである。

(参考) 宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について(内規) より抜粋

2 基幹・特定品種の移行について

(1) 特定品種から基幹品種への移行について

特定品種のうち、下記面積を上回り、生産・流通対策上、特に必要とされるものについては、基幹品種への移行を検討する。

(2) 基幹品種から特定品種への移行について

基幹品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、特定品種への移行を検討する。

作物名	面積	備考
水稲	200ha	類別区分の指定基準数量1,000tによる
麦類	200ha	銘柄区分Ⅱの基準数量500t以上による
大豆	300ha	1銘柄販売ロット500t以上

令和7年度 大豆優良品種決定調査成績



令和8年2月16日
古川農業試験場作物栽培部

1 大豆優良品種について（基幹品種）

（1）基幹品種：生産・流通対策上、基幹となる品種

品 種 名	来 歴 (育成場所、 育成年次)	年 採 次 用	特性概要
ミヤギ シロメ	岩沼在来種 の系統分離 (宮城農試, 昭36)	昭36	茎長は長茎。初期生育旺盛, 分枝数やや少ないが開張性, 本葉大きく受光体勢不良で蔓化・倒伏しやすい。紫斑病抵抗性強。立枯性病害・ <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。極大粒で品質良。
タンレイ	農林2号× 東山6号 (長野県中信農試、 昭53)	昭53	茎長は中茎。主茎節数, 分枝数やや少ない。繁茂量多いが耐倒伏性は極強。多肥条件は早播に適し, 密植適応性並びに <u>晩播適応性大</u> 。立枯性病害抵抗性強。 <u>紫斑病の発生多い</u> 。 <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。中粒で粒揃い良く品質良。
あや こがね	東山124号× エンレイ (長野県中信農試、 平11)	平11	茎長は中茎。主茎節数・分枝数ともやや少ない。耐倒伏性は強。晩播適応性が高い。ウイルス病抵抗性強。 <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。立枯性病害抵抗性・紫斑病抵抗性中。やや大粒で品質良。豆腐・味噌加工に適する。


1 大豆優良品種について（特定品種）

（2）特定品種：基幹品種を補完する品種

品 種 名	来 歴 (育成場所、 育成年次)	採用 年次	特性概要
タチ ナガハ	東山61号× 東山系G627 (長野県中信農試、 昭61)	平8	茎長は中茎。分枝数やや少ない。ウイルス病抵抗性中だがウイルスの系統によっては抵抗性がない。 <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。立枯病害抵抗性中。紫斑病抵抗性強。やや大粒で品質良。
きぬ さやか	刈系508号× 刈交0459F1 (東北農研、 平17)	平18	茎長は中茎。分枝数中程度。耐倒伏性は強。ウイルス病抵抗性強。 <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。立枯病害抵抗性、紫斑病抵抗性ともにやや強。中粒で品質良。青臭みの原因であるリポキシゲナーゼとグループAアセチルサポニンを欠失しており、豆乳・豆腐加工に適する。
すず みのり	東山199号レ)× 東山系X985 (長野県中信農試、 平11)	令4	茎長は中茎。分枝数やや少ない。ウイルス病はA～Eの5系統に抵抗性。 <u>ダイズシストセンチュウ抵抗性弱</u> 。立枯病害抵抗性中。紫斑病抵抗性強。やや大粒で品質良。密植適応性や晩播適応性については、優良品種試験の結果から収量性は「タチナガハ」に劣る。

2 大豆優良品種決定調査について

1 優良品種決定調査の流れ

区分	1年目	2年目	3年目
基本調査	<u>予備調査</u>	 <u>本調査</u>	<u>本調査</u>
現地調査		現地調査	現地調査

原則として
3年間実施

2 優良品種決定調査の調査項目の基準（大豆）

調査の種類		調査の項目
基本調査	予備調査	播種期、開花期、成熟期、発芽の良否、莖長、分枝数、子実収量、百粒重、子実品質、倒伏程度、病害虫、気象災害その他の障害に対する抵抗性、有望度及び有利又は不利とした形質。
	本調査	予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし、環境変化の受け難い項目は省略することができる。子実加工品の品質。
現地調査		基本調査の予備調査の項目から、分枝数を除いたもの。

4 供試系統の有望度説明

	有望度	意味	次年度調査の 種子配布希望
◎	有望	優良品種候補とする(品種審査会に諮る)	しない
○	やや有望	見込みがある系統なので調査を継続(もしくは特性を把握したとして中止)	する(しない)
◇	再検討	多少見込みがあるので調査を継続する	する
△	やや劣る	見込みがあまりないため調査終了(もしくは年次変動を確認するため調査を継続)	しない(する)
×	劣る	見込みがないため調査終了	しない

注) 種子配布を希望しても育成地の都合で次年度配布がない場合もある

4 優良品種として要望される品種

良質多収で機械による収穫適性及びタンパク含量が高く、加工適性に優れた以下の特性を有する品種

- イ. 晩播栽培に適する品種。
- ロ. ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い品種。
- ハ. 「タンレイ」より紫斑病抵抗性が強い品種。

5 令和7年度大豆供試系統 本調査

系統・品種名	要望	供試年数	抵抗性等の特徴(育成地の評価)				現地調査	特性の概要
			紫斑病	SMV	SCN	裂莢性		○令和6年度調査結果 ●育成地の評価・特記事項
系統A (標)タンレイ	イ、ロ	2	-	AA2BCD 抵抗性	強	難	供試 ○収量が優る(標播) ●早生系統	
系統B (標)タチナガハ	イ	2	-	AA2B 抵抗性	弱	難	供試 ○収量が優る(標播) ○収穫適性がある (最下着莢高がタチナガハ並みに高い) ○紫斑病の発生が少ない	
系統C (標)タチナガハ	ロ	1	-	AA2BCD 抵抗性	強	難	○収穫適性がある (最下着莢高がタチナガハ並みに高い)	

SMV:ダイズモザイクウイルス 大豆に感染するウイルス病の一種。A、A2、B、C、D、Eの6つの系統がある。

SCN:ダイズシストセンチュウ 大豆を加害するセンチュウの一種。

※系統A、系統B、系統Cは他県等の育成系統。

6 令和7年度試験成績（現地調査）

系統A (対)タンレイ	涌谷町	◇ (再検討)	子実重は多いが、収穫適性(最下着莢高)が低い
	登米市豊里	◇ (再検討)	子実重は多いが、収穫適性(最下着莢高)が低い ※乾燥により出芽不良となり播き直した
	石巻市和渕	◇ (再検討)	子実重は多いが、紫斑病発生程度が若干高い
系統B (対)タチナガハ	涌谷町	◇ (再検討)	子実重が多く、成熟期やや早い
	登米市豊里	○ (やや有望)	収量、品質とも対照並みで収穫適性(最下着莢高)が高いが、成熟期が遅い
	石巻市和渕	◇ (再検討)	子実重がやや少ないが、干ばつでも生育良好

シストセンチュウはいずれの地点も被害なし
粗子実重の () は対照比 (差)

※系統A、系統Bは他県等の育成系統。

7 令和7年度試験成績（本調査）

系統・品種名	供試年数	有望度	概評(対照品種との比較)
(早生) 系統A (対)タンレイ	2	○ (やや有望)	多収、青立しにくいだが、粗蛋白含量低い。 <u>特性を把握したため次年度は供試しない。</u>
(中生晩) 系統B (対)タチナガハ	2	○ (やや有望)	標播で多収、青立しにくいだが、晩播収量が同程度 <u>特性を把握したため次年度は供試しない。</u>
(晩生) 系統C (対)タチナガハ	1	◇ (再検討)	多収、成熟期が早いが、収穫適性(最下着莢高)低い <u>年次変動を見るため再検討</u>

※系統A、系統B、系統Cは他県等の育成系統。

8 令和7年度大豆供試系統 予備調査

系統・ 品種名	供 試 年 数	抵抗性等の特徴(育成地の評価)				特徴
		紫斑 病	SMV	SCN	裂莢性	●育成地の評価・特記事項
系統D (標)タンレイ	1	-	AA2BCD 抵抗性	強	難	
系統E (標)タンレイ	1	-	AA2BCD 抵抗性	-	難	
系統F (標)タチナガハ	1	-	AA2B 抵抗性	-	難	●海外多収品種を親とした多収系統 ●倒伏に強い

SMV:ダイズモザイクウイルス 大豆に感染するウイルス病の一種。A、A2、B、C、D、Eの6つの系統がある。

SCN:ダイズシストセンチュウ 大豆を加害するセンチュウの一種。

※系統D、系統E、系統Fは他県等の育成系統。

9 令和7年度試験成績（予備調査）

※評価に関係した項目のみ表示

(中生) 系統D (対)タンレイ	1	◇ (再検討)	多収だが、収穫適性(最下着莢高)低い <u>年次変動を見るため再検討</u>
	1	◇ (再検討)	多収、粗蛋白含量高いが、成熟期遅い <u>年次変動を見るため再検討</u>
(中生晩) 系統F (対)タチナガハ	1	◇ (再検討)	多収、青立しにくいだが、収穫適性、粗蛋白含量低い <u>年次変動を見るため再検討</u>

※系統D、系統E、系統Fは他県等の育成系統。

令和8年度 優良品種決定調査に供する品種 (大豆)



令和8年2月16日
古川農業試験場作物栽培部

1 優良品種として要望される品種

良質多収で機械による収穫適性及びタンパク含量が高く、加工適性に優れた以下の特性を有する品種

イ. 晩播栽培に適する品種。

ロ. ダイズシストセンチュウ抵抗性が強い品種。

ハ. 「タンレイ」より紫斑病抵抗性が強い品種。

2 令和8年度大豆供試系統 本調査

早晩性	基本調査（供試年数）			現地調査
	予備調査	本調査	要望される 品種	
中生		系 統 D (1)	イ、ロ	
		系 統 E (1)	イ	関 東 156 号 (1)
(標) タ ン レ イ				
中生晩		系 統 F (1)	イ	
	(標) タ チ ナ ガ ハ			
晩生		系 統 C (2)	ロ	東 北 197 号 (1)
	(標) タ チ ナ ガ ハ			
(比)ミヤギシロメ、(比)すずみのり				
計	(未 確 定)	4		2

注1) (標): 標準品種(対照)を示す。

注2) (比): 比較品種を示す。

注3) 予備調査の供試系統は、令和8年3月末頃に確定する見込み。

※系統D、系統E、系統F、系統Cは他県等の育成系統。

3 令和8年度大豆供試系統 本調査

系統・ 品種名	要望	供 試 年 数	抵抗性等の特徴(育成地の評価)				現 地 調 査	特性の概要
			紫斑 病	SMV	SCN	裂莢 性		○令和7年度調査結果 ●育成地の評価・特記事項
系統C (標)タチナガハ	□	2	-	AA2BCD 抵抗性	強	難	供 試	○子実重が多い ○成熟期が早い
系統D (標)タンレイ	イ、 □	1	-	AA2BCD 抵抗性	強	難		○子実重が多い
系統E (標)タンレイ	イ	1	-	AA2BCD 抵抗性	-	難	供 試	○子実重が多い ○粗蛋白質含量が高い
系統F (標)タチナガハ	イ	1	-	AA2B 抵抗性	-	難		○子実重が多い。 ●海外多収品種を親とした多収系統 ●倒伏に強い

SMV:ダイズモザイクウイルス 大豆に感染するウイルス病の一種。A、A2、B、C、D、Eの6つの系統がある。

SCN:ダイズシストセンチュウ 大豆を加害するセンチュウの一種。

※系統C、系統D、系統E、系統Fは他県等の育成系統。

※予備調査の供試系統については、各育成地の配付系統が確定した後に選定

参 考 资 料

目 次

I	宮城県優良品種決定基準	2
II	宮城県主要農作物優良品種区分基準	3
III	宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について	4
IV	宮城県主要農作物の基幹品種、特定品種の区分	5
V	優良品種決定調査の方法 (宮城県主要農作物優良品種決定調査要領(令和2年4月1日施行))	6
VI	宮城県優良品種決定調査方法	7
VII	主要農作物種子条例	9
VIII	主要農作物品種審査会構成員名簿	11
IX	水稻優良品種特性表	12
X	麦類優良品種特性表	13
X I	大豆優良品種特性表	14
X II	水稻優良品種の年次別作付面積	15
X III	麦類優良品種の年次別作付面積	16
X IV	麦類優良品種の年次別作付面積	17

I 宮城県優良品種決定基準

(令和2年9月18日決定)

1 優良品種の採用基準

知事は、優良品種に採用する場合には、おおむね次の基準のいずれかを満たしている品種のうち、普及上特に支障となる欠点のないものの中から選択するものとする。

(1) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案し、既存の優良品種（以下「対照品種」という。）と比較して明らかに優れていると認められること。ただし、優良品種に採用しようとする品種が、普及対象地域の範囲又は生産物の用途について制限のある場合を妨げない。

(2) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて、対照品種と比較して明らかに優れていると認められること。

2 優良品種の廃止基準

知事は、優良品種採用後次のいずれかに該当すると認められるときは、当該優良品種を廃止することができる。

(1) 優良品種の特性が変化し、1の基準を満たさなくなった場合

(2) 普及対象地域で栽培上重要とされる特性又は生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点が明らかになった場合

(3) 当該品種に係る作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しがない場合

(4) 新たな優良品種によって代替が可能である場合

(5) 当該品種の種子の供給が困難となった場合

II 宮城県主要農作物優良品種区分基準

(令和2年9月18日決定)

(目的)

- 1 本県が推奨する主要農作物品種(水稻・麦類・大豆)を基幹品種及び特定品種の2区分とし、適地適品種の作付を推進する。

(名称区分)

- 2 優良品種は次の名称に区分する。

(1) 基幹品種

生産・流通対策上、基幹となる品種

(2) 特定品種

基幹品種を補完する品種

(区分基準)

- 3 品種の構成は、基幹品種を熟期別に設定し、さらに、これを補完する特定品種を配することとする。

採用については、「宮城県優良品種決定基準」(令和2年9月18日決定)「優良品種の採用基準」1に定めるもののほか、下記の項目に照らし総合的に勘案して決定する。

(1) 基幹品種

生産、流通対策上、基幹となる品種として生産振興を図る必要のある品種

(2) 特定品種

ア 特定の気象・土壌条件に栽培が適している品種

イ 特定の用途に対し、一定量の需要が見込まれる品種

ウ 作業体系及び各種危険分散の要求を満たす品種

エ 生産者並びに消費者ニーズ等が特に強い品種

オ 暫定的に普及が望まれる品種

Ⅲ 宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について(内規)

(令和2年9月18日決定)

主要農作物(水稲・麦類・大豆)基幹・特定品種の採用・廃止については「宮城県優良品種決定基準」及び「宮城県主要農作物優良品種区分基準」に定めるもののほか、以下により行うものとする。

1 すでに普及している品種(県優良品種以外のもの)の取り扱いについて

過去3ヶ年、概ね下記面積を超えて安定的に栽培されている品種については、優良品種決定調査に供試することを検討する。

なお、これまで優良品種決定調査に参考品種等として供試し、特性が明らかになっている品種については、既存データを活用し、検討することができるものとする。

水 稲	麦 類	大 豆
200ha	100ha	100ha

2 基幹・特定品種の移行について

(1) 特定品種から基幹品種への移行について

特定品種のうち、下記面積を上回り、生産・流通対策上、特に必要とされるものについては、基幹品種への移行を検討する。

(2) 基幹品種から特定品種への移行について

基幹品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、特定品種への移行を検討する。

作物名	面 積	備 考
水 稲	200ha	類別区分の指定基準数量1,000tによる
麦 類	200ha	銘柄区分Ⅱの基準数量500t以上による
大 豆	300ha	1銘柄販売ロット500t以上

3 基幹・特定品種の廃止について

基幹・特定品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、廃止を検討する。

水 稲	麦 類	大 豆
100ha	50ha	50ha

4 その他

上記以外に必要な事項については、主要農作物品種審査会において検討を行うものとする。

IV 宮城県主要農作物の基幹品種、特定品種の区分

1 水稲

	基幹品種	特定品種
早 生	—	ゆきむすび(低アミロース米)
中 生	ひとめぼれ、ササニシキ、 まなむすめ、だて正夢	げんきまる、東北194号、 金のいぶき
晩 生	—	コシヒカリ、つや姫
も ち	みやこがねもち	—
特 殊 用途米	蔵の華(酒造好適米)	たきたて(低アミロース米)

2 麦類

(1) 小 麦

	基幹品種	特定品種
中 生	シラネコムギ、夏黄金	あおばの恋

(2) 大 麦

	基幹品種	特定品種
早 生	シュンライ、ホワイトファイバー	—
中 生	ミノリムギ	—

3 大豆

	基幹品種	特定品種
中 生	タンレイ、あやこがね	タチナガハ、きぬさやか、すずみのり
晩 生	ミヤギシロメ	—

V 優良品種決定調査の方法

(宮城県主要農作物優良品種決定調査要領 (令和2年4月1日施行))

1 調査対象品種

(1) 優良品種決定調査 (以下「調査」という。) の対象となる品種は、次のすべての要件を満たすものの中から主要農作物品種審査会の調査審議を経て決定するものとする。

ア 調査に支障のない程度に品種の固定が進んでいること。

イ 調査に必要な種子が十分に供給されること。

ウ 県が定めた病虫害抵抗性その他の主要な特性について、検定により明らかにされていること。

エ 県の既存の優良品種との比較栽培試験等により、改善された点が認められること。

(2) (1) の品種の育成者は、調査を受けようとする品種について、(1) のアからエまでの事項に関する資料を添えて県に次に掲げる期日までに申請を行うものとする。ただし、あらかじめ県と協議して別の期日を設けた場合には、この限りではない。

稲及び大豆 12月末日

麦類 7月末日

2 調査の期間

(1) 調査の期間は、原則として3年とする。ただし、3年未満の調査であっても他の都道府県その他の機関の調査結果から調査対象品種の特性が明らかかな場合又は県が必要と認める場合には、この期間を短縮することができる。

(2) 基本調査は、調査対象品種の特性を明らかにするため、第1年目に予備調査、第2年目以降に本調査を行う。ただし、当該品種の特性が明らかかな場合又は県が必要と認める場合には、予備調査を省略することができる。

(3) 現地調査は、基本調査の予備調査が終了してから行う。

3 調査に用いる品種

調査には、次の品種を含めなければならない。

(1) 標準品種

原則として生産・流通対策上基幹となる優良品種として県内に普及しており、調査対象品種の比較対象の基準となる品種

(2) 比較品種

特定の形質を比較するための品種

VI 宮城県優良品種決定調査方法

(令和2年9月18日決定)

- 1 品種の育成者が優良品種決定調査を受けようとする品種について、検定により明らかにしておくべき特性

農作物の種類	特性の項目
稲	出穂期, 成熟期, 稈長, 穂長, 精玄米重, 玄米千粒重, 品質, 食味, 病虫害抵抗性(葉いもち, 穂いもち, 紋枯病等), 障害抵抗性(耐冷性, 高温登熟耐性, 耐倒伏性, 穂発芽性等), 実需者の評価
麦類	出穂期, 成熟期, 播性程度, 稈長, 穂長, 子実重, 容積重, 千粒重, 品質, 穂発芽性, 加工適正(製粉性, 粉色, 精麦白度等), 病虫害抵抗性(赤さび病, うどんこ病, 赤かび病), 障害抵抗性(耐倒伏性, 耐寒雪性), 実需者の評価
大豆	開花期, 成熟期, 主茎長, 分枝数, 子実重, 有粒重, 種皮色, 光沢, 品質, 病虫害抵抗性(ウイルス病, 立枯性病害, 紫斑病, センチュウ), 障害抵抗性耐倒伏性, 裂皮の難易), 実需者の評価

2 優良品種決定調査の耕種概要の基準

調査の種類	農作物の種類	区制		耕種法の種類	
		1区面積	区数		
基本調査	予備	稲	6㎡以上	2区以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等について, 本県に最も普及している耕種様式により調査を行う。
	調査	麦類	10㎡以上		
		大豆	12㎡以上		
現地調査	本調査	稲	6㎡以上	3区以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等について, 本県に最も普及している耕種様式を原則として複数用いて調査を行う。
		麦類	10㎡以上		
		大豆	12㎡以上		
現地調査	現地調査	稲	20㎡以上	2区以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等について, 優良品種適応地域ごとに最も普及している耕種様式により調査を行う。
		麦類			
		大豆			

3 優良品種決定調査の調査項目の基準

調査の種類		調査の項目
基 本 調 査	予備調査	<p>1 稲 播種期, 移植期(直播の場合は入水期), 出穂期, 成熟期, 発芽の良否(直播又は陸稲の場合に限る。), 稈長, 穂長, 穂数, 全重, 玄米収量, 標準品種と玄米収量の比較比率, 玄米千粒重, 玄米品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>2 麦類 播種期, 出穂期, 成熟期, 発芽の良否, 稈長, 穂長, 穂数, 子実収量, 千粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>3 大豆 播種期, 開花期, 成熟期, 発芽の良否, 茎長, 分枝数, 子実収量, 百粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p>
	本調査	<p>1 稲 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 心白又は腹白の多少, 搗精歩合及び食味</p> <p>2 麦類 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 容積重及び子実加工品の品質</p> <p>3 大豆 予備調査の項目に同じ。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 子実加工品の品質</p>
	現地調査	<p>1 稲 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>2 麦類 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>3 大豆 基本調査の予備調査の項目から, 分枝数を除いたもの。</p>

Ⅶ 主要農作物種子条例

[令和元年宮城県条例第 59 号]

第三章 主要農作物品種審査会

(設置)

第十八条 知事の諮問に応じ、優良品種に関する重要事項を調査審議するため、主要農作物品種審査会（以下「審査会」という。）を置く。

(所掌事務)

第十九条 審査会は、次に掲げる事項を調査審議する。

- 一 優良品種の決定基準に関する事項
- 二 優良品種決定調査に供される品種に関する事項（当該品種に係る優良品種決定調査の継続及び中止に関することを含む。）
- 三 優良品種決定調査の方法に関する事項
- 四 優良品種の決定及び廃止に関する事項
- 五 その他優良品種に関し必要な事項

(組織等)

第二十条 審査会は、委員十人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

- 一 学識経験を有する者
- 二 関係団体の役員又は職員
- 三 関係行政機関の職員
- 四 県の職員

3 前項第一号に掲げる者のうちから任命される委員の任期は、二年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第二十一条 審査会に、会長一人及び副会長二人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、審査会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐するとともに、会長があらかじめ定めた順序により、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第二十二條 審査会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 審査会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審査会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事)

第二十三條 審査会に、幹事を置き、県の職員のうちから、知事がこれを任命する。

2 幹事は、審査会の所掌事務について、委員を補佐する。

(会長への委任)

第二十四條 この章に定めるもののほか、審査会の運営に関し必要な事項は、会長が審査会に諮って定める。

Ⅷ 主要農作物品種審査会構成員名簿 (令和7年4月)

役 職 名	氏 名	所属及び職名
会 長	本間 香貴	東北大学大学院農学研究科作物学研究室 教授
副会長	佐々木 利幸	全国農業協同組合連合会宮城県本部 米穀部長
〃	守屋 明良	公益社団法人みやぎ農業振興公社 常務理事
委 員	大川 亘	尚綱学院大学総合人間科学系理工・自然部門 准教授
〃	鳥羽 大陽	宮城大学食産業学群食資源開発学類 准教授
〃	高橋 清範	一般社団法人宮城県農業会議 副会長
〃	石川 宣子	宮城県生活協同組合連合会 常務理事
〃	大崎 早苗	宮城県農業士会 宮城県指導農業士
〃	阿部 祐子	仙台市経済局農業振興課 課長
〃	千葉 啓嗣	宮城県農政部 副部長 (技術担当)
幹 事	關口 道	宮城県農政部 みやぎ米推進課長
〃	都築 寛明	宮城県農政部食産業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
〃	菅野 千秋	宮城県農政部農業振興課 技術副参事兼総括課長補佐
〃	滝澤 浩幸	宮城県古川農業試験場 作物育種部長
〃	小高 勝範	宮城県古川農業試験場 作物栽培部長

XI 大豆優良品種特性表

種	早晩	品名	来歴 (育成場所, 育成年次)	採用年次	優良品種区分	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	* 生成態型	* 主茎節数	* 分枝数	* 主茎長 (cm)	* 葉形	* 葉の育及	* 毛の無及び色	* 花の色	* 熟葉の色	* 裂葉性	* 実子										栽培適地			
																		百粒重 (g)	* 形状	* 形皮色	* 種皮色	* 臍色	10a当り 収量 (kg)	粗たんばく 質 (%)	粗脂肪 (%)	全糖 (%)	* 外観品質		* ウイルス 病害	* 立枯性	* 紫斑
大豆	中生	タンレイ	農林2号×東山18号(シロムタカ) (長野県中信農試,昭53)	昭53	基幹	7.24	10.28	中間型	15.8	3.7	69	有	有限	白	紫	褐	中	中	30.9	楕円	黄	黄	316	44.6	20.0	21.3	中上	注6 やや弱	大	莢長は中茎。主莢節数・分枝数や少ない。莢茂重多いが耐倒伏性は強い。多肥条件下は莢節に適し、密植適応性並びに晩熟適応性大。立枯性病害抵抗性強。紫斑病の発生多い。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。中粒で粒揃い良く品質良。	山間高冷地を除く 県下一円
大豆	中生	あやこがね ^{注3}	東山194号(シロムタカ)×エンレイ (長野県中信農試,平11)	平11	基幹	7.27	10.21	中間型	16.5	4.3	91	有	有限	白	紫	褐	中	中	35.1	球	黄	黄	351	45.3	19.4	21.7	中上	中	大	莢長は中茎。主莢節数・分枝数ともやや少ない。耐倒伏性は強。晩熟適応性が高い。ウイルス病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯性病害抵抗性・紫斑病抵抗性中。やや大粒で品質良。豆腐・味噌加工に適する。	山間高冷地を除く 県下一円
大豆	中の晩	タチバナガハ	東山16号×東山系G27 (長野県中信農試,昭61)	平8	特定	7.24	11.05	中間型	16.4	3.9	75	長	有限	白	紫	褐	中	中	39.1	楕円	黄	黄	303	43.1	20.7	21.6	中上	中	中	莢長は中茎。分枝数や少ない。ウイルス病抵抗性中だがウイルスの系統によつては抵抗性が少ない。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯性病害抵抗性中。紫斑病抵抗性強。やや大粒で品質良。	山間高冷地を除く 県下一円
大豆	中の晩	きぬさやか ^{注4}	刈系508号×刈系596F1 (北北農研,平17)	平18	特定	7.25	10.16	中間型	15.2	4.9	76	有	有限	白	白	中	中	28.5	球	黄白	黄	391	43.4	19.3	23.2	中上	中	中	莢長は中茎。分枝数中程度。耐倒伏性は強。ウイルス病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯性病害抵抗性・紫斑病抵抗性ともにやや強。中粒で品質良。青実みの原因であるアザキノクナナセとアザキノクナナセAアザキノクナナセを欠失しており、豆乳・豆腐加工に適する。	山間高冷地を除く 県下一円	
大豆	中の晩	すずみのり	東山199号(シロムタカ)×東山系 X385(東山212号) (長野県中信農試,平11)	令4	特定	7.25	11.02	中間型	16.5	3.7	79	三	有限	白	紫	褐	中	中	37.4	楕球	黄	黄	389	45.3	19.8	21.3	中上	中	中	莢長は中茎。分枝数や少ない。ウイルス病はA～Eの5系統に抵抗性。ダイズシストセンチュウ抵抗性強。立枯性病害抵抗性中。紫斑病抵抗性強。やや大粒で品質良。密植適応性や晩熟適応性については、優良品種試験の結果から収量性は「タチバナガハ」に劣る。	山間高冷地を除く 県下一円
大豆	晩生	ミヤギシロメ ^{注5}	岩沼産米種の系統分離 (岩城農試,昭36)	昭36	基幹	7.30	11.06	中間型	17.4	4.5	95	有	有限	白	紫	淡褐	中	中	44.2	や 楕 円	黄 白	黄	410	42.3	19.5	23.6	中上	小	小	莢長は長茎。初期生育旺盛。分枝数や少ないが開張性。本葉大きく受光体勢不良で癒化・倒伏しやす。立枯性病害・紫斑病抵抗性強。立枯性病害・ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。極大粒で品質良。	県下平担地帯

注1) 特性表のデータは、過去5か年(令和3年～令和7年)の優良(奨励)品種決定調査結果の平均値。
注2) 「*」印を付した項目は「すずみのり」以外に「たいすみのり」は「ダイズ特性調査マニュアル」(農研機構種苗管理センター)の表記に基づく。品種採用時の項目・表記方法を用いているため、採用年次により項目が無くなり、同一特性でも表記が変わった場合がある。
注3) 「あやこがね」は、平成25～29年のデータ。
注4) 「きぬさやか」は、平成27年のみのデータ。
注5) 「ミヤギシロメ」の青立ちが障害が顕著だった令和5年を除く4か年のデータ。
注6) 「タンレイ」の紫斑病抵抗性は「たいすみのり」品種特性分類(農林水産省)では「中」だが、県内発病程度を考慮し「やや弱」としている。

Ⅻ 水稻優良品種の年次別作付面積

(面積:ha)

年次 品種	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度			
	作付 面積 (ha)	作付割合		作付 面積 (ha)	作付割合		作付 面積 (ha)	作付割合		作付 面積 (ha)	作付割合		作付 面積 (ha)	作付割合		作付 面積 (ha)	作付割合		
		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B	
うるち	やまのしずく	36	0.1%	0.1%	8	0.01%	0.014%	32	0.1%	0.1%	4	0.01%	0.01%	35	0.07%	0.07%	33	0.1%	0.1%
	ササニシキ	3,479	6.0%	5.9%	3,924	6.8%	6.6%	3,872	7.0%	6.8%	4,266	7.7%	7.6%	4,099	8.1%	7.9%	3,684	7.1%	6.9%
	ひとめぼれ	43,988	75.8%	74.0%	42,508	73.7%	71.9%	40,189	72.6%	70.9%	38,805	70.5%	68.8%	36,002	70.9%	69.0%	37,460	72.3%	70.4%
	まなむすめ	2,941	5.1%	4.9%	2,895	5.0%	4.9%	3,247	5.9%	5.7%	3,425	6.2%	6.1%	2,555	5.0%	4.9%	2,626	5.1%	4.9%
	だて正夢	870	1.5%	1.5%	921	1.6%	1.6%	706	1.3%	1.2%	704	1.3%	1.2%	683	1.3%	1.3%	593	1.1%	1.1%
	げんきまる	1,046	1.8%	1.8%	1,105	1.9%	1.9%	1,033	1.9%	1.8%	1,190	2.2%	2.1%	670	1.3%	1.3%	397	0.8%	0.7%
	トヨニシキ	102	0.2%	0.2%	96	0.2%	0.2%	42	0.1%	0.1%	41	0.1%	0.1%	55	0.1%	0.1%	47	0.1%	0.1%
	ゴシヒカリ	580	1.0%	1.0%	543	0.9%	0.9%	464	0.8%	0.8%	425	0.8%	0.8%	440	0.9%	0.8%	425	0.8%	0.8%
	つや姫	4,378	7.5%	7.4%	5,008	8.7%	8.5%	4,966	9.0%	8.8%	5,257	9.5%	9.3%	5,386	10.6%	10.3%	5,919	11.4%	11.1%
	東北194号	220	0.4%	0.4%	251	0.4%	0.4%	179	0.3%	0.3%	194	0.4%	0.3%	294	0.6%	0.6%	280	0.5%	0.5%
	蔵の華	172	0.3%	0.3%	162	0.3%	0.3%	103	0.2%	0.2%	120	0.2%	0.2%	119	0.2%	0.2%	118	0.2%	0.2%
	ゆきむすび	63	0.1%	0.1%	49	0.1%	0.1%	72	0.1%	0.1%	79	0.1%	0.1%	38	0.1%	0.1%	72	0.1%	0.1%
	たぎたて	35	0.1%	0.1%	29	0.1%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	27	0.1%	0.1%	35	0.1%	0.1%
	金のいぶき	114	0.2%	0.2%	215	0.4%	0.4%	429	0.8%	0.8%	557	1.0%	1.0%	360	0.7%	0.7%	136	0.3%	0.3%
	その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
計	58,021	100%	97.6%	57,713	100%	97.6%	55,331	100%	97.6%	55,063	100%	97.6%	50,761	100%	97.3%	51,822	100%	97.4%	
もち	ヒメノモチ	22	1.5%	0.04%	30	2.1%	0.05%	18	1.3%	0.03%	14	1.0%	0.02%	13	0.9%	0.02%	11	0.8%	0.02%
	みやこがねもち	1,412	97.5%	2.4%	1,344	96.7%	2.3%	1,330	97.9%	2.3%	1,331	98.0%	2.4%	1,364	98.2%	2.6%	1,377	98.4%	2.59%
	こもちまる	15	1.0%	0.02%	16	1.2%	0.03%	11	0.8%	0.02%	14	1.0%	0.02%	13	0.9%	0.02%	12	0.9%	0.02%
計	1,448	100%	2.4%	1,389	100%	2.4%	1,359	100%	2.4%	1,358	100%	2.4%	1,390	100%	2.7%	1,400	100%	2.6%	
合計	59,469	—	100%	59,102	—	100%	56,690	—	100%	56,421	—	100%	52,151	—	100%	53,221	—	100%	

注1) 作付割合のAは、うるち及びもち種別の作付面積割合。Bはうるち及びもち種合計の作付面積割合。

注2) 作付面積は、種子供給量(公益社団法人みやぎ農業振興公社原種苗部)を面積換算(4kg/10a)した。合計面積は東北農政局統計部発表とは一致しない。

注3) だて正夢及び金のいぶきの作付面積は、生産登録面積。

XⅢ 麦類優良品種の年次別作付面積

(面積:ha,割合:%)

年次 品 種	令和2年産			令和3年産			令和4年産			令和5年産			令和6年産			令和7年産		
	作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合	
		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B			
ミノラムギ	211	18.2%	9.3%	275	21.5%	11.5%	295	20.9%	12.3%	262	18.1%	10.0%	251	17.0%	9.4%	237	16.2%	9.0%
シュンライ	675	58.2%	29.9%	527	41.2%	22.1%	495	35.1%	20.6%	505	34.8%	19.3%	477	32.2%	17.9%	458	31.4%	17.4%
大麦 ホワイトファイバー	247	21.3%	10.9%	431	33.7%	18.0%	569	40.4%	23.7%	648	44.7%	24.8%	699	47.2%	26.3%	742	50.8%	28.2%
その他	27	2.3%	1.2%	47	3.7%	2.0%	51	3.6%	2.1%	36	2.5%	1.4%	53	3.6%	2.0%	22	1.5%	0.8%
計	1,160	100%	51.3%	1,280	100%	53.6%	1,410	100%	58.7%	1,450	100%	55.6%	1,480	100%	55.6%	1,460	100%	55.5%
シラコムギ	603	54.8%	26.7%	582	52.4%	24.4%	476	47.9%	19.8%	571	49.2%	21.9%	482	40.8%	18.1%	385	32.9%	14.6%
夏黄金	363	33.0%	16.1%	406	36.6%	17.0%	435	43.8%	18.1%	500	43.1%	19.2%	608	51.5%	22.9%	711	60.8%	27.0%
小麦 あおばの恋	116	10.5%	5.1%	105	9.5%	4.4%	64	6.4%	2.7%	63	5.4%	2.4%	68	5.8%	2.6%	73	6.2%	2.8%
その他	16	1.5%	0.7%	17	1.5%	0.7%	19	1.9%	0.8%	27	2.3%	1.0%	22	1.9%	0.8%	16	1.4%	0.6%
計	1,100	100%	48.7%	1,110	100%	46.4%	994	100%	41.3%	1,160	100%	44.4%	1,180	100%	44.4%	1,170	101%	44.5%
合 計	2,260	100%	100%	2,390	100%	100%	2,404	100%	100%	2,610	100%	100%	2,660	100%	100%	2,630	100%	100%

注1) 作付割合のAは、大麦及び小麦別の作付面積割合。Bは大麦及び小麦合計の作付面積割合。

注2) 平成18年以降の作付面積は、農林水産省「作物統計」(面積)とみやぎ米推進課で調査した品種構成比率(品種状況調査)を基に算出。

XIV 大豆優良品種の年次別作付面積

(面積: ha, 割合: %)

年次 品種	令和元年産		令和2年産		令和3年産		令和4年産		令和5年産		令和6年産			
	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)		
大豆	ミヤギシロメ	5,137	46.7%	5,076	47.0%	5,556	50.5%	5,984	50.3%	6,049	51.7%	6,474	55.3%	
	タンレイ	2,640	24.0%	2,700	25.0%	2,288	20.8%	2,289	19.2%	2,036	17.4%	1,693	14.5%	
	タチナガハ	2,695	24.5%	2,462	22.8%	2,607	23.7%	3,084	25.9%	3,112	26.6%	2,742	23.4%	
	あやこがね	198	1.8%	199	1.8%	153	1.4%	135	1.1%	129	1.1%	147	1.3%	
	きぬさやか	77	0.7%	113	1.0%	102	0.9%	107	0.9%	107	0.9%	79	0.7%	
	すずほのか	110	1.0%	110	1.0%	99	0.9%	106	0.9%	94	0.8%	72	0.6%	
	すずみのり										35	0.3%	263	2.2%
	その他	143	1.3%	140	1.3%	195	1.8%	195	1.6%	164	1.4%	129	1.1%	
合 計	11,000	100%	10,800	100%	11,000	100%	11,900	100%	11,700	100%	11,700	99%		

注) 作付面積は農林水産省作物統計資料とみやぎ米推進課で調査した品種構成比率をもとに算出。